

2020年度 文化人類学コース 授業一覧

| 担当教員 | 科目名 | 副題 | 学期 | 曜日 | 時限 | 授業概要 |
|--------|-----------------|------------------------------|-----|----|----|--|
| 松前 もゆる | 文化人類学研究指導 2-1 M | 文化人類学的思考法と方法論を学ぶ | 春学期 | 金 | 3 | 修士論文の完成に向けて受講生の研究計画の立案・実施に対し助言を行い、理論的および方法論的課題について個別に指導する。授業は主に、受講生による研究発表とディスカッションの形式で行う。 |
| | 文化人類学研究指導 2-2 M | | 秋学期 | 金 | 3 | |
| | 文化人類学特論1 | 文化人類学的思考法の検討 | 春学期 | 木 | 5 | この授業では、文化人類学の基本となる思考法、ものごとへのアプローチのしかたについて理解を深めることを目指します。まず授業前半では、大学で文化人類学を専攻していない者も履修することを視野に、新たに刊行された文化人類学の教科書を基本文献として、テーマごとの文化人類学分野（および隣接分野）における議論の流れ、学説史の概略を学び、全員で検討します。その後、参加者の関心にそって、文化人類学的研究の重要な成果である民族誌（エスノグラフィ）を読み、その内容について報告をするとともに全員でディスカッションをすることで、今後の研究の基盤となりうる文化人類学的な思考法、ものごとへのアプローチのしかたへの理解を深めます。 |
| | 文化人類学演習 2-1 | 「仕事」の人類学： 経済活動への人類学的アプローチ | 春学期 | 金 | 3 | 経済活動は人間にとって欠かすことができない営みであり、各地の生業などの分析は文化人類学を学ぶ者にとって必須となってきた。一方で、グローバリゼーションが進行する今日の世界では、経済は市場経済に特化するかたちで、文化や暮らしとは切り離して語られがちである。しかし、世界各地でのフィールドワークから明らかにされてきたように、グローバリゼーションは各地域で個別に、ローカルなかたちで立ち現れるのであり、また、各地域で「仕事」とされる活動は賃金労働に限られない。したがって、文化人類学的研究においては、人々が実際にグローバリゼーションをどう生きているのか、市場の原則とは異なる人間の暮らしに根ざした経済（＝人間の経済）に光をあてる必要がある。本演習では、人々の日常の経済活動について文化人類学および隣接分野でどのような議論がなされてきたか、さらには近年、こういった議論があるかを学ぶとともに、グローバル経済のなかでの人々の暮らし、〈生きる世界〉にフィールドワークからアプローチした昨今の研究について検討し、そこから、現代世界において人々の〈生きる世界〉をどのように描くことができるか、その方法論について参加者全員で検討したい。 |

| | | | | | | |
|--|-----------------|----------------------------|-----|---|---|---|
| | 文化人類学演習 2-2 | 移動・移住への人類学的アプローチ | 秋学期 | 金 | 3 | 人の移動・移住は今日の世界における顕著な社会現象のひとつであると言え、人類学における移民研究も珍しいことではない。しかし、世界では難民や移民の受け入れが社会的な「問題」としてクローズアップされ続け、同時に近年、従来の移民研究が国民国家を前提とし、とりわけ国境をこえる移動を非日常、逸脱と捉えてきたことを再考する動き、さらには、移民=男性を前提としてきたことを批判しジェンダーの視点からとらえ直す試みも広がっている。従って本演習では、これまでの移動・移住に関する人類学および隣接諸分野の研究を概観した後、近年の問題提起について検討していく。さらに授業の中では、移動を選択する人たちがばかりではなく、移動をしない人々も含め、グローバリゼーションのなかで変容する地域社会で人々がいかに生きているかも視野に入れて、全体として、現代世界における移動・移住への人類学的アプローチの可能性、さらにはそのほかのテーマへの理論的・方法論的応用の可能性について考えたい。具体的には、Alice Elliot et al. (eds.) Methodologies of Mobility: Ethnography and Experiment (Worlds in Motion), 2018. 等をテキストとしてとりあげて購読するとともに、関連するテーマで研究を進める参加者に調査報告・文献報告をしてもらい、全員でディスカッションをおこなう予定である。 |
| | 文化人類学研究指導 2-1 D | フィールドワークの実施および博士論文執筆に関する指導 | 春学期 | 金 | 4 | 博士論文の完成に向けて、受講生のフィールドワークの計画立案および実施を支援し、理論的、方法論的課題について個別に指導する。受講生が、フィールドワークから得られる厚みのある記述と理論的展開とを結び付けられるよう、助言を行いたい。 |
| | 文化人類学研究指導 2-2 D | | 秋学期 | 金 | 4 | 博士論文の完成に向けて、受講生のフィールドワークの計画立案および実施を支援し、理論的、方法論的課題について個別に指導する。受講生が、フィールドワークから得られる厚みのある記述と理論的展開とを結び付けられるよう、助言を行いたい。 |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|--|-----|---|---|--|
| 國弘 暁子 | 文化人類学演習2 | フィールドワーク論 | 秋学期 | 火 | 4 | このフィールドワーク実習授業では、まず、テキスト講読を通じて、日本国内、および海外でフィールドワークを実施する際に直面するであろう問題群を想定し、その解決方法について考え、そして、フィールドで得られたデータをどのように論文としてまとめることができるのかについて考えることを目的としている。フィールドワークの多様な可能性について学んだ上で、国内・海外（インドを予定）におけるフィールドワークを実施する。海外渡航の場合、現地滞在費などは自費となります（20万円前後の見込み）。 |
| | 文化人類学研究指導 3-1 M | Research Methods for Anthropological Studies | 春学期 | 火 | 3 | 受講生の研究計画の確立、および、修士論文を書くための理論的、方法論的課題を個別に指導する。授業は主に受講生による発表とディスカッションの形式でおこなう。 |
| | 文化人類学研究指導 3-2 M | | 秋学期 | 火 | 3 | |
| | 文化人類学特論2 | Ethnographic Studies | 秋学期 | 月 | 2 | 様々な地域のエスノグラフィックフィルムの鑑賞、及び、モノグラフの輪読を行い、人類学的研究における専門的知識を幅広く習得することを目的とする。授業中に使用する資料等は英語によるものが中心となります。 |

| | | | | | | | |
|--|-----------------|---|-----|---|---|---|--|
| | 文化人類学演習 3-1 | Anthropology of Religion | 春学期 | 火 | 3 | この演習では、宗教人類学のテキスト講読を通して、宗教という領域への人類学的アプローチを習得することを目的とする。指定テキストでは著名な研究者による議論のポイントがまとめられているので、それらを参考にして、履修者は各自の研究テーマにとって必要と思われる文献を探して読み進めていくことが求められる。 | |
| | 文化人類学演習 3-2 | | 秋学期 | 火 | 3 | | |
| | 文化人類学研究指導 3-1 D | Research Methods for Anthropological Studies Advanced Level | 春学期 | 火 | 2 | | 受講生の研究計画の確立、および、博士論文を書くための理論的、方法論的課題を個別に指導する。授業は主に受講生による発表とディスカッションの形式でおこなう。 |
| | 文化人類学研究指導 3-2 D | | 秋学期 | 火 | 2 | | |

| | | | | | | |
|-------|---------|-------------------------|-----|---|---|---|
| 松本 尚之 | 人類学特論 1 | 文化人類学の視座： 学説史の回顧を通して | 春学期 | 金 | 4 | グローバル化、情報化が進んだ現代社会では、「文化」は人と人を分かち、対立や摩擦を生み出す主要な要因と考えられています。我々の日常においても、出身（国籍・民族・国内の出身地域）や宗教、ジェンダーや経済的格差、政治的な主義主張によって異なる文化（生活習慣や考え方）を持つと感じる「他者」と交わる機会が増えています。文化人類学は、フィールドワークを通して、自らが「他者」「異文化」と感じる存在の理解を目指す学問です。その過程は、対象を「異なる」と感じる自分自身の視点を問い直し、自らのうちの偏見や固定観念を内省する作業でもあります。文化人類学者は、「文化」という概念を用いて「他者」を総体的に捉え、論じることを試みてきました。しかし、何について論じれば「他者」を語ったことに、あるいは理解したことになるのでしょうか。この講義では、文化人類学の学説史の回顧を通して、異文化研究、異文化理解の可能性について検討したいと思います。 |
| | 人類学特論 2 | 文化人類学の視座： 民族誌を読む | 秋学期 | 金 | 4 | 本講義では、今日の文化人類学の諸関心について、アフリカ地域をフィールドとした代表的な民族誌の輪読を通じて検討します。「民族誌」（エスノグラフィー）とは、文化人類学や社会学における研究手法であり、その成果物を指します。もともとは特定の民族や社会集団の「文化」を体系的に記述した文書を指しましたが、現在では幅広い領域、対象に対し用いられています。講義では、今日のアフリカ諸社会をめぐる研究動向について概括するとともに、近年研究関心がますます多様化する文化人類学の理論的展開について、アフリカ地域を事例として学ぶことが目的です。さらに、フィールドワークにもとづき記述されたモノグラフを購読することで、調査から論文執筆に至る研究過程について考えていきます。 |

| | | | | | | |
|----------------|----------|---------------------|-----|---|---|--|
| ライアン スティーブン | 文化人類学特論3 | Humans and language | 秋学期 | 木 | 5 | This course primarily aims to help students acquire an essential understanding of key theories of the development of human language and the role of language in the development of humans. through reading English materials on the subject. The secondary objective is to help students develop the abilities that are needed when pursuing their own academic research. Students are strongly encouraged to use English in the classes, though there's no prerequisite for enrollment in terms of language competence. |
|----------------|----------|---------------------|-----|---|---|--|

| | | | | | | |
|-------|-----------|-------------------------------|-----|---|---|--|
| 三浦 恵子 | 文化人類学特論 4 | 多文化共生時代の日本における外国人居住者のフィールドワーク | 春学期 | 月 | 4 | 本コースでは、修士論文を書くための事前体験授業として文化人類学で重要な民族、宗教、文化、自己と他者、周辺性、ジェンダー、国家、市民、コミュニティ、アイデンティティなど多くの課題に関連している多文化共生の問題をフィールドワークを伴った授業を通して考察していく。具体的には、グローバリゼーションの進行に伴って多文化共生が課題になっている日本に3年以上在住している移民、難民、日本人との結婚や他の長期居住者（研修生、長期労働者、中国帰国者とその家族）などについて、文献とフィールドワークから実態を明らかにしていく。日本に居住する外国人が我が国に居住するまでに至った背景、日本における彼らの生活と居住するコミュニティや支援組織との関係の実態、関連する法制度などを資料とフィールドワークから探り、日本における多文化共生の問題点と方向性を考察していく。当該外国人集団の民族、宗教、来日目的、来日時期などを考慮に入れて学生ごとに異なるグループを調査し、比較研究する。 |
|-------|-----------|-------------------------------|-----|---|---|--|

| | | | | | | |
|--------|-------------|---------------------------------|-----|---|---|--|
| 小田島 理絵 | 文化人類学専門研究 3 | Critical Reading of Ethnography | 春学期 | 土 | 2 | <p>本講座では、人類学的知識の蓄積と民族誌記述の技術的内面化を目指す。受講者は、民族誌文献講読はもちろんのこと、人類学者が先行研究において発明し、用いた方法、理論、実践等の分析を行い、自分自身のリサーチデザインを決定していく。The aim of this course is to accumulate anthropological knowledge and to internalize skills of ethnographic writing. Students are required not only to read ethnographic work but also to make up their own research designs by carefully analyzing methods, theories, and practices that anthropological researchers used or invented in their manuscripts.</p> <p>受講にあたって次の諸点を心に留めておく。Students are expected to keep following points in their minds throughout this course:</p> <p>(1) フィールドワークはどのように実行されたか（実行していくか） / How was fieldwork designed and conducted in previous anthropological studies? (How or in what ways will you conduct your fieldwork?)</p> <p>(2) フィールドワークにおける研究者の位置づけと民族誌の中での位置づけ / What kinds of social positions did researchers construct at or with their field sites? (What kind of position do you anticipate to construct with your informants?)</p> <p>(3) 何を「データ」としているのか（していくのか） / What kinds of data did previous researchers utilize for representing cultures? (What kinds of data do you intend to acquire for your own studies?)</p> <p>(4) 「データ」はどのように提示されているか（提示していくのか） / In what ways did previous researchers present their data? (How are you going to present your data for potential audiences?)</p> <p>(5) 理論的主題はいかに輪郭づけられたか（輪郭づけていくか） / How did researchers polish and shape their theoretical considerations? (How will you treat theoretical discussions and use them for your own studies?)</p> <p>(6) 民族誌的知見が参入し、活用される場とは / For what kinds of places, areas, and fields does and can ethnographic knowledge make significant contributions?</p> |
| 成田 弘成 | 文化人類学専門研究 4 | 「観光と人間」の過去・現在・未来 | 秋学期 | 金 | 5 | <p>最近の日本における観光政策は、東京オリンピックというビッグイベントの開催の時を迎え、その影響力を顕著に現わすようになっている。世界を取り巻くグローバル化の在り方が大きく変化しつつある今日、「観光の在り方」を正面から問い直す時期に来ていることを理解すべきだろう。本講義では、こうした激動の時代の中で、真の変革的アプローチを探求しながら、現代のグローバル化に対応する観光のあり方を議論の中心に置き、過去の事例を検証しつつ、今後の未来において重要な課題を検討してゆきたい。理論的には、観光人類学の先駆的で挑戦的な研究を世界の事例を用いて紹介しつつ、将来の有効な視点を議論してゆきたい。</p> |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|--------------------------|-----|---|---|--|
| 鶴見 太郎 | 文化人類学研究指導 4-1 D | 日本の民俗文化に関する総合的 ・学際的研究 | 春学期 | 木 | 5 | 個別に行う研究報告によって、研究方法・資料上の助言を行う。特に昭和期（戦前・戦後）に行われた民俗調査における採集手帳を読み解くことで、今後の研究に資することを心がける。 |
| | 文化人類学研究指導 4-2 D | | 秋学期 | 木 | 5 | |